



が れ き 6/7浜田市災害訓練に参加して 瓦礫の下の医療

DMAT隊員(救命センター看護師) 三浦 裕輔

DMATとは「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team の頭文字をとって略してDMAT(ディーマツト)と呼ばれています。

医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる専門的な訓練を受けた医療チームのことを言います。当院には医師5名、看護師7名、業務調整員6名の隊員がいます。

私は6月7日に浜田市弥栄町で行われた浜田市防災訓練に当院DMATの看護師として参加しました。訓練テーマは「水害・土砂災害に対する防災活動」でした。今回の訓練には当院医師2名、看護師2名、業務調整員2名で構成された1チームで参加しました。

訓練には消防や、警察、自衛隊、自治体など合計25の団体が参加し、災害発生から時系列で各担当部門での訓練が行われました。当院DMATは派遣要請を受け、現場に向かい応急救護という訓練項目で参加しました。私の役割は本部の命令を受け、消防隊によって設けられた仮設救護所に入り、医師とペアを組み多数傷病者のトリアージ、その中でも優先度の高い傷病者を病院に搬送するための処置を行うことでした。実際に4名の重症傷病者の救急処置を行い、病院に搬送を行いました。病院ではないため検査をして原因を探るということはできません。研修等で学んだ知識、技術を活用し実際に患者さんを診て、触れ、受傷機転などから必要とされる処置の選択を医師と共にを行い介助を行います。災害現場には医療資器材はないので、病院から点滴セットや、気道確保セット、人工呼吸器、外傷セットなどを持参し出動しま

す。また、自分自身の安全を守る個人装備としてブーツ、プロテクター、ヘルメットを装着し活動を行います。

当院DMATのユニホームは青色です。一見医療者には見えないですが背中には病院名、職種が記載してあります。DMATは別名「瓦礫(がれき)の下の医療」とも呼ばれています。今回は救護所での活動になりましたが、実際に消防の方と同行し災害現場や倒壊した建物の中で医療処置を施すこともあります。

有事の際には迅速に出動できるように個人装備、資器材は常に準備してあります。災害はいつ、どこで何が起こるか分かりません。昨年広島県にて集中豪雨による土砂災害が発生しました。私が生まれる前ですが浜田でも洪水が発生し多くの犠牲者がでたと聞いています。浜田市は地域特性上土砂災害のリスクは大きく、これから夏季になり台風や集中豪雨などが予測されます。今回の訓練のように準備をしておくことが重要です。実際に災害がおきてからだと出来ないことも多いと思います。

もし災害が発生した際には、私はDMAT隊員の一人として冷静な判断、適確な処置ができるように平日頃から知識、技術を磨いていきたいです。

